

どうとくの ひろば

巻頭特集

道德科の児童の評価を考える

[若松秀一]

特集

いまさら聞けない！

道德のキホン用語 第2弾

[永林基伸]

見てわかる！ 道德

「自然愛護」「感動、畏敬の念」

[越智 貢, 上村 崇, 奥田太郎]

実践事例

小学校

素直な思いや考えの
交流をもとに道德的価値を
深める授業をめざして
[飯田啓雅]

中学校

現代的な課題
「いじめ」を意識した
道德授業の実践
[小森彦毅]

こんなとき、どうする？

子どもに「道德科と
学活（学級活動）はどこが違うの」
と聞かれたら？

[坂部俊次, 渡邊真魚, 飯島英世]

地球の仲間からのメッセージ

角 [長瀬健二郎]

本資料は、一般社団法人教科書協会
「教科書発行者行動規範」に則り、
配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報

詳しくはWebへ！

日文

検索

未来をになう子どもたちへ

日本文教出版／秀学社





[巻頭特集]

道徳科の 児童の評価を考える

京都市立梅津小学校 校長 若松秀一



はじめに

「道徳の時間」は、昭和33年度の教育課程に特設されて59年、60歳の還暦を迎える今年度（平成30年度）から「特別の教科 道徳」（以下道徳科）として、教科として新設されることになった。これにより道徳科の学習の在り方が様々に議論される中、道徳科における児童の評価が大きな課題として浮かび上がってきている。

そこで、道徳科の児童の評価についていろいろな考えがある中で、本校が実際に取り組んでいることを紹介したいと思う。

1 道徳科の目標から、「道徳科では何を学習するのか？ どんなことを考えさせるのか？」を明確にする。

道徳科の目標は、「小学校学習指導要領 第3章

特別の教科 道徳」の第1で、次のように示されている。

第1章総則の第1の2の（2）に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

つまり、道徳科では、まず、道徳的価値は、人間としてよりよく生きる上で大切なことであることを理解（価値理解）し、その道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解（人間理解）し、道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は1つではな

く、多様であるということを理解（他者理解）する学習をする。

次に、そのような学習を通して、人間としてよりよく生きる上で大切な道徳的価値を、自分のこととして考えたり感じたりする、つまりこれまでの自分の経験やそのときの考え方、感じ方と照らし合わせながら、さらに自己の生き方についての考えを深める学習（自己理解）を展開するのである。

そして、道徳科では、児童自ら道徳性を養うという目標に向かって、児童一人ひとりが、道徳的価値の理解と同時に自己理解を深める学習を通して、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができるようにするということになる。

つまり、道徳科では、「価値理解」「人間理解」「他者理解」「自己理解」の学習内容が意図的に組み込まれていることが大切である。

このことから授業に関する評価の視点を設定するとすれば、次の4点が挙げられる。

【価値理解】…道徳的価値は、人間としてよりよく生きる上で大切なことであることを理解できたか。

【人間理解】…道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなどを理解できたか。

【他者理解】…道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は1つではなく、多様であるということを理解できたか。

【自己理解】…道徳的価値をこれまでの自分の経験やそのときの考え方、感じ方と照らし合わせながら、さらに自己の生き方についての考えを深めることができたか。

これらの4つの視点を取り入れた授業をしていかなければならないと考えている。逆に、そのような授業を展開しなければ児童の評価をすることは容易ではないと考えている。

2 具体的な道徳科の児童の評価について

では、実際にどのような評価が考えられるであろう

か。道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議の報告から、ポイントとなることは、

- ・記述式とすること。
- ・大きくりなまとまりを踏まえた評価とすること。
- ・児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行うこと。
- ・道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること。
- ・道徳科の学習活動における児童生徒の具体的な取組状況を一定のまとまりの中で見取ること。

の5点であると捉えた。

この5点を考慮し、道徳科の時間の発言や話し合い内容、毎時間終末で書いている振り返りを資料にして、評価を記述することとした。

そこで、本校では、道徳科における児童の評価の基本的な考えとして、教員の共通理解を図るために改めて次のような考えを示した。

「特別の教科 道徳」の児童の評価は、道徳科の学習を通して、児童が他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方からより多面的・多角的な見方へと発展していったことや、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているといった学習状況を一定のまとまりの中で見取り（発言や振り返りシートなどをもとに）、その児童の成長の様子を記述式で行う。

ここで言う「一定のまとまり」についての捉え方は、1学期、2学期というまとまりや年間を通した一定期間のまとまりと捉えることにした。





授業中の発言や学習態度を見取ることも大切です。

その一定のまとまりの中で、「ある道徳的価値の学習」における児童の成長を顕著に捉えることができる学習の振り返りを中心に、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めている内容を記述式で表現することが、個人を認め、励ます個人内評価となり、今回の道徳科導入の意図に合うと考えている。

そして、道徳科では、児童自ら道徳性を養うという目標に向かって、児童一人ひとりが、道徳的価値の理解と同時に自己理解を深める学習を通して、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができる学習を行うのである。したがって、道徳科の評価は、それらができたかどうかの授業の評価と児童の成長の評価の2つになる。

児童の成長についての評価をさらに考えてみたい。

指導者が、ワクワクしながら一人ひとりの児童の成長を、「この子、すごいことを考えているなあ。」「自分とこんな風に向き合っているのか。」「と見取り、その内容を記述するのである。児童の素晴らしい成長や学習の様子を認めて励ますというプラス思考の評価でなければならない。

このことを踏まえた上で、先に挙げた5つのポイントを整理し、以下の4つのポイントを考え、評価に取り組むことにした。

- ①児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子が見えるところ。
- ②価値の理解を自分自身との関わりの中で深めていることがわかるところ。
- ③成長を積極的に受け止め、認め、励ます、個人に対する内容にする。
- ④特に顕著に見られる具体的な状況を記述する。

つまり、①や②を受け、③にそれらを組み入れ、④の形で記述するというイメージである。

具体的には、次のような記述方法を考えた。

(一段落目)

学期や年間を通した大くくりなまとまりの中での見取りを行った内容。

(二段落目)

一面的な見方から、より多面的・多角的な見方へと発展していったことや、道徳的価値を自分自身との関わりの中で深めている部分（授業で特化した言動など）などの内容。

次に具体的な評価文例を挙げる。

3. 具体的な評価文例

1年

いつも教材にどっぷりと入り込んで、自分の経験と合わせながら考える姿が見られました。

『ハムスターの赤ちゃん』では、ハムスターのお母さんになって赤ちゃんに話しかけるという役割演技を通して、生命があるものを大切にしているという気持ちになることができました。また、生き物に対して「かわいがって、やさしくそだてたい。」という気持ちになることができました。

2年

道徳の時間には自分の考えや思いを進んで伝えたり、友達の意見を聞いたりして、ねらいとする道徳的価値について、理解を深めることができました。

『大文字』の学習では、教材文から地域の行事について考え、地蔵盆などの伝統行事のために身近な人たちが苦勞をしたり時間をかけたりしていることを知り、伝統を守り続ける人たちの大変さを感じることができました。「ぼくたちがおとなになったら、じぞうぼんのじゅんびをがんばりま

す。」と学習を振り返り、自分たちが受け継ごうという意欲を見せていました。

3年

道徳の時間に大切にしている「思いや考えを伝え合い、それらを学級の人々とともにつなぐこと」に目を向けながら、道徳的価値への理解が深められるように取り組んでいました。

『らくがき』では、正しいと思ったことを行うために、自分の意見を相手にしっかり伝えることが大切だと気づきました。「友だちがもし悪いことをしていたら、見のがさずに注意をしたり、いけないことをつたえたりしたい。」という思いをもちました。

4年

教材文を通して考えたことや感じたことを積極的に話したり書いたりし、ねらいとする道徳的価値について考えを深めることができました。

『生きたれいぎ』では、礼儀正しくするということは、相手に対して真心をもって接することなのではないかと考えました。そして、「自分が社会人になっても、礼儀をいちばん大切にしたい。」という気持ちになることができました。

5年

授業内において、新しく広げ深められた価値の世界に対して、自分はどうか考え、どう評価するのかを問い続け、道徳的価値や人間としての生き方の自覚を深めることができました。

『勇気を出して』では、あらためて「勇気」とは何か考え、授業や交流を通して、「勇気の出し方」について知ることができました。また、「勇気を出して証言できたのはけい察がいたからではなく、本来、それぞれがもっている『正しくありたい。』という思いがそうさせたのだ。」という考えをもつことができました。

6年

登場人物を自分に置き換えてねらいとする道徳的価値を深く理解しています。相手のことを考え

てとるべき行動を選び、友達と話し合うことで、より確かな考えとして深めることができました。

『みんなの組体操』では、グループでの話し合いなど友達の話聞いて、自分の考えを深めていました。「信らいは助けることだと思っていたけれど、今日の学習で、目標達成のために男女関係なく心を1つにして協力し合うことが大切だとわかった。」とワークシートに書いていました。

ここに示した評価文例は、わずかで、先に示した4つのポイントが十分取り入れられているといえないところもあると考えているが、4つのポイントを示すことで、児童の見取りをよりわかりやすく評価に具体化することができたと考える。

4 今後の課題

ここで陥りがちな評価の表現も示しておきたい。

(一段落目省略)

『この町がすき』の学習では、梅津で暮らす自分の毎日を振り返って、「うめづの町のみんなががんばっているから、うめづの町の人はこの町がすきなんだなと思いました。」という感想をもちました。梅津の町を大切に思う心を大きく育てられたように感じました。

波線部分は、指導者の感想であり、本当にその児童がそうになっていたかはわからない。また、「○○していただけるように思います。」「○○と書かれていて感動しました。」も同様に指導者の感想ではないだろうか。

さらに「努力する気持ちを大切にしてください。」は、指導者の期待であって、児童の成長の様子を見取ったものではないといえる。

このように、まだまだ道徳科の評価に関しては、適切な評価ができるよう研究していく必要があると考えている。

いまさら聞けない！ 道徳のキホン用語

第2弾

元東京都葛飾区立堀切中学校 校長 永林基伸



前号に引き続き、新任の先生や今まで道徳に縁の薄かった先生のために、道徳科でよく使われる用語を徹底解説！

モラルジレンマ

道徳教材で、登場人物が2つ以上の異なる道徳的価値の板挟みになり、どちらかを選択しなければならない場面を設定し、どちらを取るべきかを葛藤・議論させる手法のこと。

この手法は、発達心理学者のコールバーグの理論をもとに、荒木紀幸氏らによって提唱され広く小・中学校の道徳授業で取り入れられています。中学校では、授業で意見交換が活発に行われ、議論が盛り上がる例が見られます。しかし、登場人物の人間性の洞察を通して、**自己を深く見つめるための活発な議論**にならないと、上滑りになってしまいうでしょう。

モラルジレンマの教材として適切かどうかは、対立させる価値葛藤の状況が適切かどうかにかかっています。

(深めるワード：コールバーグ、マイケル・サンデル、藤川大祐、池谷裕二)

個人内評価

学習の評価方法の1つで、児童生徒の道徳性につながる発言や意欲的な態度を見取ること。「横断的個人内評価」と「縦断的個人内評価」に分かれている。道徳科の評価として有効な評価法。

対象となる児童生徒自身から得られる情報を用いて基準設定を行う評価法で、他者との比較や到達目標への到達度を用いて数値化するものではありません。横断的とは、複数の道徳の内容について、縦断的とは、1つの道徳の内容について着目し、その内容につながる発言や意欲が、以前と比べてどのように変化したのかを評価します。異なる道徳の内容を比較することは、難しい面があるので、一般的に**道徳科における評価は、縦断的個人内評価が基本となると考えます。**

(深めるワード：教育心理学、小・中学学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第5章)

自尊感情

「自分には価値があり尊敬されるべき人間である」、と思える感情のこと。心理学でいう、self-esteemの日本語訳。

これまでの児童生徒対象の調査では、外国人に比べて日本人の「自尊感情」は低い傾向にあり、自分の才能や能力に対する思い（自己評価）の弱さが表れています。そこで、子どもたちの教育では、よいところを認め、褒めることで自信をつけさせることが大切だといわれてきました。しかし、なかなか成果が上がっていないのが現実です。

それならば、人の役に立った、人から感謝された、人から認められたというように、人間関係の中で肯定的に受け入れられることで、自己評価は高まるのではないかと考えます。**社会の中でどう生きるかを求める道徳教育では、「自己有用感」を育てることが有効な**のではないのでしょうか。

(深めるワード：ウィリアム・ジェームズ、国立教育政策研究所)

価値の一般化

道徳の授業を展開する際、学習指導過程の中で、道徳的価値を児童生徒自らが自分のこととして捉え、道徳的価値を自分の生活に生かしてこうとする思いや課題を培うこと。

小・中学学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 第2節「道徳科の特質を生かした学習指導の展開」から、上のように理解できます。しかし、一般的には、学習過程の展開後段で、中心発問を通しての話し合いを受け、自分自身の問題として、自己の日常生活に振り返って考えることと理解されています。価値の一般化の発問は、小学校の低・中学年では有効な方法の1つですが、**発達段階や教材の内容、そこに示されている道徳的価値**によっては、必ずしも適切とは限りません。同じ形にこだわるのではなく、自己を深く見つめる様々な展開の工夫が求められています。

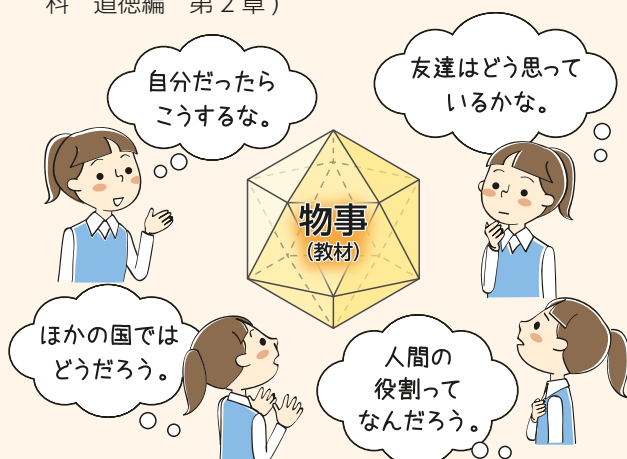
(深めるワード：小・中学学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 第2節、青木孝頼著『価値の一般化の発問』(明治図書)、永田繁雄)

た 多面的・多角的

人間としての生き方についての考えを深めるため、物事を広い視野をもち、様々な角度から総合的に考察すること。道徳科の目標に明示されている。

グローバル化する社会の中では、私たちは、多様な文化や価値観を持つ人々と相互に理解し協力して生きていかねばなりません。そして、それらの行動やその背景にある道徳的諸価値も、広い視野で、様々な角度から考察することが求められます。道徳科の授業では、児童生徒の多様な考えに基づいた、深い議論によって、より一層実践につながる道徳性を育てていくことが求められます。また、教師は、様々な個性を持つ児童生徒を、複数の目で様々な角度から見取り、評価に対して共通の認識を持つ必要があります。

(深めるワード：小・中学学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第2章)



ど 「道徳教育」と「道徳科」

「道徳教育」は、学校教育の主要な教育活動であり、様々な教育活動全体で行われる。「道徳科」は、道徳教育の要で、「特別の教科 道徳」として、道徳科の授業を中心に行われる。

学校教育は、教育基本法第1条に示されているとおり「人格の完成を目指し……」です。「人格の完成及び国民の育成の基盤となるのが道徳性であり、その道徳性を養うことが道徳教育の使命である。」と学習指導要領解説 総則編にあります。道徳科には、この目標を具現化するための、4つの視点からなる「道徳の内容」があります。この内容に沿い、人間としての生き方についての考えを深める学習をすることで、道徳科以外の道徳教育で扱う道徳的価値に関わる指導を補い、さらに深め、道徳的な判断力、心情、道徳的实践意欲と態度を育てます。

(深めるワード：小・中学学習指導要領解説 総則編、小・中学学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第2章)

き 「教材」と「資料」

道徳の教科化に伴い、授業で使用する教材としては、教育基本法ほか、各種の関係する法令に従い、文部科学省の検定に合格した教科用図書（教科書）を使用する。その他、教科書を補う資料を用いてもよい。

これまで、道徳の時間で使用する教材は、学習指導要領に示された指針に沿って、学校や教師が魅力的なものを開発し、自由に使用することができました。今改訂では、その指針に大幅な変更はないものの、授業で用いる中心的教材は、教科書会社が発行する「検定済教科用図書」となります。しかし、各学校の実情や重点学習項目に合わせて、文部科学省などが発行した資料集などの適切な資料（補助教材）に差し替えてもかまいません。その場合は、「学校における補助教材の適切な取扱いについて」（平成27年3月4日初等中等教育局長通知）など、関係法規の趣旨に沿って使用します。

(深めるワード：小・中学学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 第4節)

ロ ローテーション授業

道徳の授業において、担任だけでなく多くの教員が参加し、定期的に学級を移動しながら授業を行う協働的取り組みのこと。

例えば、各教員がそれぞれ1つの教材について、毎週順番に学級を交代して指導する方法が考えられます。この方法では、担任は、異なる学級の児童生徒と話し合うことができるとともに、指導過程について改善しながら次の授業を進めることができます。また、毎週、教材を統一し、各教員が指導する学級を変えていく方法もあり、この方法では、どの学級も同じ教材を用いて話し合え、児童生徒の反応をその都度検討できます。児童生徒の多様な考えを引き出し、児童生徒を多面的・多角的に見取ることができ、担任も自分の学級を参観できるなど、授業の改善や評価に役立つと考えられます。

(深めるワード：『中等教育資料』2018.5月号)

ローテーション授業

	A組	B組	C組
5/10	〇〇先生	△△先生	◇◇先生
5/17	◇◇先生	〇〇先生	△△先生
5/24	△△先生	◇◇先生	〇〇先生

「自然愛護」 「感動, 畏敬の念」

私たちと自然

私たちにとって自然とはどのようなものなのでしょう。すぐに脳裏に浮かんでくるのは、セミやコオロギの声、鳥のさえずり、芝生の匂い、朝焼けや夕焼けの空、流れる雲、心地よい風、川のせせらぎ、といった、どこか故郷につながる風景かもしれません。そうした自然は私たちの日々のストレスを和らげ、心を穏やかにしてくれる癒しそのものです。

しかし、反対に荒々しい自然を思い起こす場合もあるでしょう。地震や津波や豪雨など、自然はときに私たちの想像を超える災害をもたらし、その被害の甚大さが私たちを恐怖と悲しみのどん底に突き落とします。そうした自然は私たちの平穏な生活を破る脅威でしかありません。

このように、少し想像するだけでも、自然の顔が1つでないことがわかります。自然はさまざまな顔を持っています。自然と私たちとの関係を今一度考えてみることにしましょう。

資源と環境

まず、自然が私たちの生活を支える資源であることを見逃してはなりません。農作物、魚介類、肉類などの食料は、大地や川や海からの、つまり自然からの贈り物です。食料だけではなく。木材や岩石や鉱物、そして石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料がなければ、現在の私たちの暮らしは成り立ちません。いうまでもなく、これらもすべて自然が生み出した恵みです。

いやそれどころか、ふだん意識することのない空気や水も自然の賜物です。しかも、それらの状態いかんは私たちの生存の必要条件となっています。水の成分や大気の温度が一定の値を超えるだけでも、私たちの生命はたちまち危機に瀕します。このように、自然は、

資源としても環境としても私たちの生命に欠かせません。安定した自然の生態系や気候サイクルは私たちの生命を育む揺りかごなのです。

自然愛護の論理

とすれば、私たちが生きていることは、私たちが自然によって生かされていることと同義です。動植物が自然の一部であるなら、私たち人間も自然の一部だと言わなければなりません。実際、私たちの生活行動は他の哺乳動物たちのそれと変わりません。食事をし排泄しそして眠るという彼らの営みを私たちも共有しています。生殖についても同じです。私たちも、彼らと同じく、生命的存在者として自然の中に生まれ、一定期間の生命的活動ののち、自然の中へ還っていきます。

このように辿ってみると、自然のシステムを守ることが私たち自身を守ることでもある、ということに気づかされます。森林破壊やオゾン層破壊、大気汚染や水質汚染といった環境破壊は、私たち自身を自分の手で破壊する行為でもあります。自然を大事にすること（自然愛護）は、とりもなおさず、私たち自身を大事にすることにほかならないのです。

感動と畏敬

このように私たちが自然の一部であることを自覚することは重要です。確かに他の動物とは異なり、私たち人間は、知性を介して、病原菌をつきとめ、宇宙探査を行うほどの高度な文明を築きました。しかし、自然はそれを難なく打ち砕く力を持っています。私たちの知性は台風の進路を予測することはできても、台風の発生を抑えることはできません。プレートの移動を止めることも断層のずれを修復することも不可能です。いったん自然の猛威にさらされると、私たちは恐れおののく無力な生き物でしかありません。

監修：桃山学院教育大学 教授 越智 貢

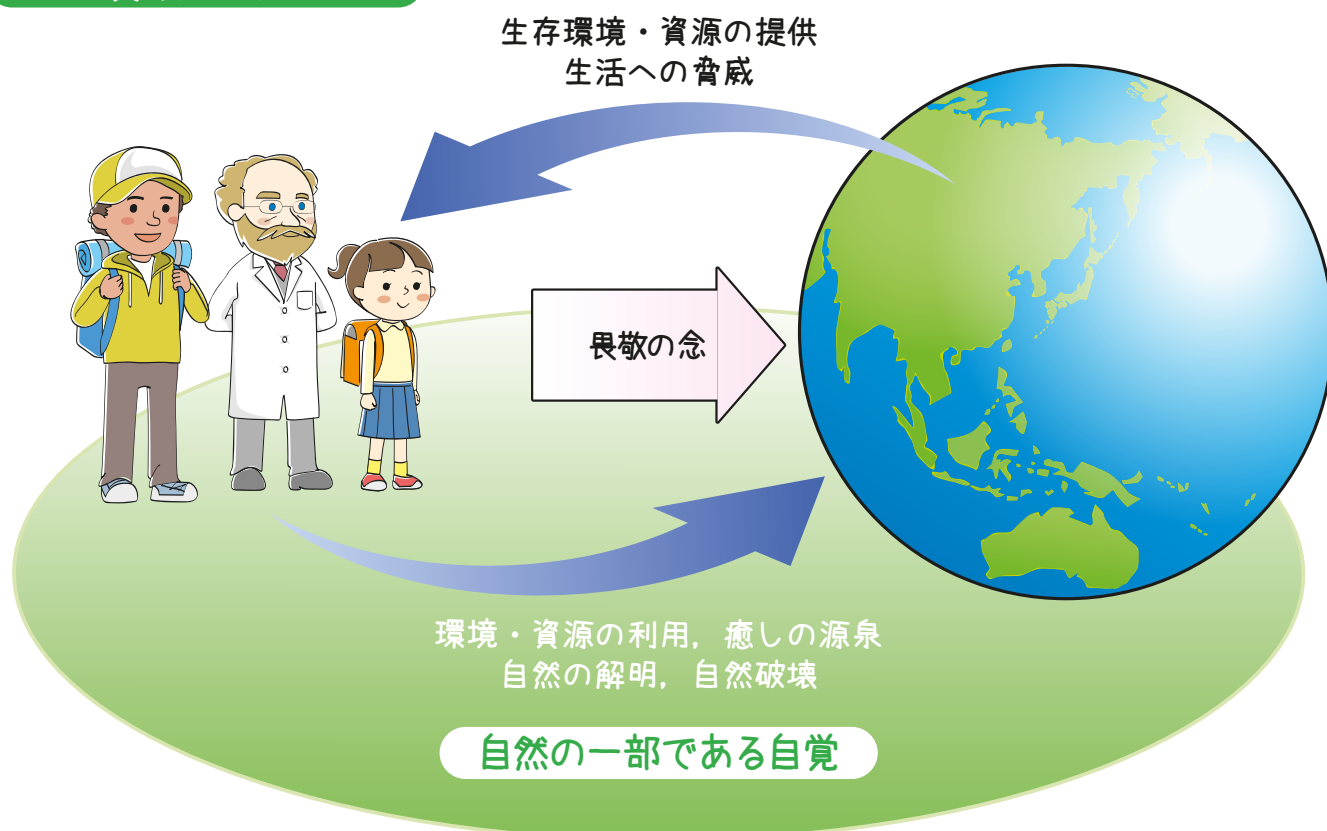
共著：福山平成大学 教授 上村 崇
南山大学 教授 奥田太郎

私たちを生み出した自然が私たちを超える存在であることを見落とすべきではありません。いわゆる「大自然」を目の前にしたとき、私たちがその雄大さや美しさに感動しながら、同時に畏れともいえるべき感情に包まれるのは決して偶然ではないでしょう。私たちはそうした感動や畏敬の念を意図的に生じさせることはできません。それらは、私たちを超える大いなる自然に対してまさしく「自然に」湧き起こってくる感情

です。とすれば、それらの感情は、私たちが、私たちの源である自然の中で、自然の一部として限りある生命を^{いのち}生きていることの証だと言ってよいのかもしれません。

冒頭で述べたように、自然はさまざまな顔をもっています。そして、私たちは、私たち人間もその顔の1つであることを忘れてはならないのです。

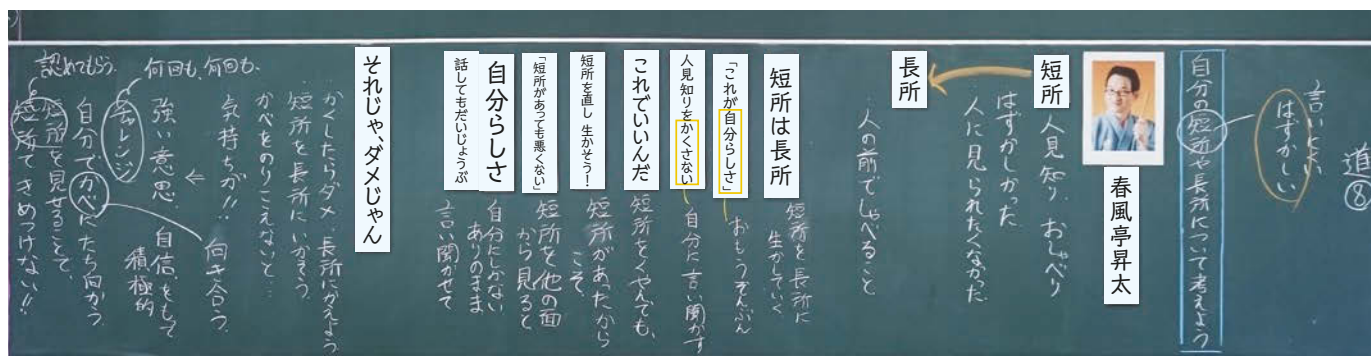
自然愛護と畏敬の念



自然のシステムを守る(自然愛護)=私たち自身を守る

素直な思いや考えの交流をもとに 道徳的価値を深める授業をめざして

高知大学教育学部附属小学校 教諭 飯田 啓雅



「主体的・対話的で深い学び」を実現するための教師の働きかけ

(1) 考えることがより明確になるように、課題提示の工夫をする。

道徳科の授業では、本時で教師がねらいとしている道徳的価値と、子どもが捉えている道徳的価値とがずれてしまったり、子どもがこの時間に何を考えればよいのかの見通しがもてないままであったりすることがある。そこで、教材を読んだあと、「この主人公は、どうしてこんなことができたのだろう？」や「この時の主人公はどんな気持ちだったのだろう？」などと子ども自身が考えてみたいと思うことを探させ、「では、そのために大切なことは？」と課題につなげていくようにする。そうすることで、子どもの思考を共通の土台に乗せ、子ども自らが動き出せるようにしていく。

(2) 活動を工夫したり、教材提示の工夫をしたりする。

道徳科の授業において、子ども自らが学習対象に働きかけている状態は、「考えてみたい！」「自分の考えを言ってみよう！」「自分の考えを言ってみよう！」という気持ちが高まった状態だと考える。そのためには、自分の思いをはっきりと表現させる必要がある。そこで、教材に関係する人物や物を紹介することで登場人物を身近に感じさせたり、事前にとったアンケートから自分の身近な生活を振り返らせたりするなど、自分事として考えさせる場面をつくり、自分の立場をもたせることで、その時の自分の気持ちを表すことができるようにする。また、教材を最後まで読ませるのではなく、登場人物の心が動く場面の手前で分けて提示することで、「この後、どうなるのか考えてみたい」「自分だったら」と子ども自らが学習対象に働きかけることができるようにしていく。

(3) 子どもの素直な思いを見取することで、ペアやグループでの話し合いのタイミングを探る。

道徳科の授業では、自分の思いを伝えたり、友達の考えを聞いたりする場面が必要である。そのために、教師は、ペアやグループでの話し合いのタイミングを探るための見取りが重要となる。ねらいとする道徳的価値に迫ろうとしている表現を見取れば、称賛し近くの人に伝えるように声掛けをする。また、自分の思いが十分に表現できていないという子どもを見取った時にも、ペアやグループで話し合う場面をつくることもある。このように、友達と対話することで、自分の考えに自信がもてたり、新たな考えがもてたりするのである。

(4) 子どもの思考を深めるために、揺さぶりを繰り返す。

中心発問では、登場人物の最も揺れている気持ちを考えさせる。ここで、正解だとされる考えを答えていけば安心だと思いながら表現している子どもの姿（思考が深まっていない状態）を見取る。そこで、教師が「本当にそれでいいの？」「苦しいと分かっている、わざわざしんどい思いをしなくてもいいのでは？」などと揺さぶりをかけることで、一度立ち止まらせ、登場人物と同じように葛藤する場面をもたせるようにする。このようにすることで、子どもは、「わかっているけど……」「そうは言うけど……」などと次第に本音を言いたくなるのである。そこで、その本音に対して「さらなる揺さぶり」をかけていく。そうすることで、子どもの思考に「〇〇さんの意見は分かる。けど、ぼくは…」「〇〇くんの考えには反対で、私は…」などと、友達の考えに対する新たな自分の考えが生まれ、「言いたい！」「友達に伝えたい！」という気持ちが強まり、友達の意見とつながり、語り合いが始まる。このように、揺さぶりを繰り返すことで、子どもが本音で語り合いながら思考を深め、ねらいとする道徳的価値に迫っていくことができるのである。

展開例

内容項目：A「個性の伸長」

主題名 長所と短所

教材名 それじゃ、ダメじゃん
(『小学道徳 生きる力6』日本文教出版)

ねらい

「それじゃ、ダメじゃん」という言葉に込められた昇太さんの思いを考えていくことを通して、短所を改め自分らしさを伸ばしていこうとする心情を育てる。

学習活動（◎中心発問，○主な発問，・予想される児童の反応）

◇教師の働きかけ

導入

1 「春風亭昇太さん」について知り、「短所」についてのイメージを考える。

- ・知られるのが嫌。
- ・恥ずかしい。

◇昇太さんの映像を見せ*，落語やテレビで活躍していることを伝え，教材に対する関心を高める。

◇短所を知られたり，人前で言ったりすることに抵抗があるという意見を押さえておく。

2 本時の課題を知り，教材について話し合う。

◇p.22まで（昇太さんが短所と長所について考え直すところ）を読む。教材の題名は隠しておく。

自分の短所や長所について考えてみよう。

○昇太さんは，中学生，高校生の頃には，どうして短所を隠そうと思ったのだろう。

- ・短所を見られるのが恥ずかしい。
- ・親や先生から注意される。

◇昇太さんの短所を確認するとともに，導入で出された短所のイメージと重ねさせることで，誰にでも短所を否定的に思う気持ちがあることを捉えさせるようにする。

○昇太さんが出会った長所は何だろう。

- ・おしゃべりを生かして一生懸命落語をすること。
- ・大勢の前で落語ができること。

◇短所が長所となったことを確認し，どうしてそう思えたのか考えさせるようにする。

○「それじゃ，ダメじゃん」という言葉には，昇太さんのどんな思いが込められているのかな。

- ・短所も努力すれば長所になるはずだ。
- ・短所も見方次第では短所でなくなる。
- ・自信を持ってやれば短所でなくなる。
- ・自分で改めようとしないと自分の短所は直らない。自分らしさを生かしていくことができるのは自分の考え方次第。

◇続きを読み，昇太さんが言った「それじゃ，ダメじゃん」という言葉を紹介する。

―【思考を深める働きかけ】（揺さぶり）―

「昇太さんの言っていることは分かるけど“短所＝はずかしい，隠したい”という思いを，そう簡単に捨てられるかな」と揺さぶり，自分らしさを伸ばしていくことは自分自身にしかできないこと，自分に向き合うことが大切であることを捉えさせる。

◎昇太さんのように，自分自身に言い聞かせる言葉を考えてみよう。そして，短所を改め自分らしさを伸ばしていこうとするには，どんなことが大切か話し合おう。

- ・「このままではいけない」
自分で何とかしようと思うことが大事だから。
- ・「自信をもて」
自信をもってやれば，前向きに考えられるから。

―【自分事として考えるための働きかけ】―

短所を改め，自分らしさを伸ばしていこうとするための考え方として大切なことを自分事として捉えることができるように，自分なりの言葉を考えさせ，そう思ったわけを述べさせるようにする。

展開

3 感想を書き，全体の前で発表する。

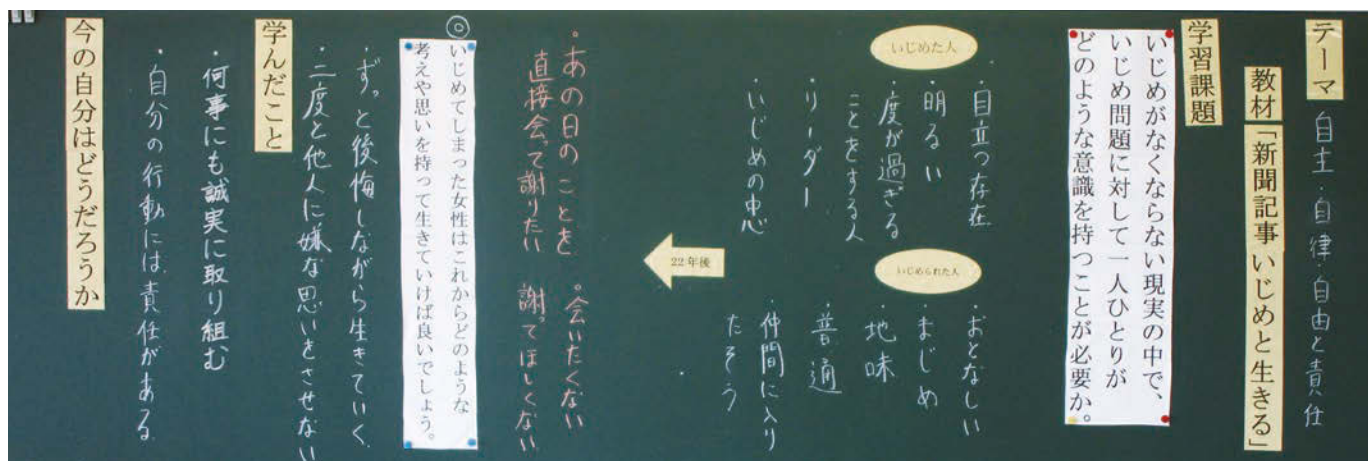
- 今日の学習を通して，「○○が大事だと分かった。理由は～」や「最初○○と思っていたけど，Aくんの考えを聞いて，自分の考えが△△に変わった」などのように自分の考えたことを書いて発表しよう。

◇この時間に考えたことから，これまでに思っていた自分の短所をどのように見つめ直そうと思ったかを書くように声掛けする。

終末

現代的な課題「いじめ」を意識した 道徳授業の実践

横浜市立六角橋中学校 教諭 小森 彦毅



1 はじめに

平成 28 年 11 月、文部科学大臣名で「いじめに正面から向き合う『考え、議論する道徳』への転換に向けて」というメッセージが発表された。以来、横浜市では「いじめの未然防止」をより意識した道徳科の実践を行ってきた。

2 指導の工夫

(1) 年間計画の中の位置づけ

本時の内容項目「A 自主、自律、自由と責任」を「いじめの未然防止」として年間計画の中で位置づけている。この内容項目以外でもそれぞれの内容項目に合わせた“いじめ”を扱った授業を取り入れている。

(2) 導入について

年に 2 回行っている「いじめ解決のための生活アンケート」の具体的な結果を生徒たちに提示した。生徒自らが教材を通して何を学ぶのかという見通しを立て、問題意識をもち、自分の課題として、解決に向け主体的に学習に取り組むことができるような工夫を行った。

(3) 多面的・多角的な発問構成

① 3 つの発問構成の意図

本時の発問構成では、「自分自身」「被害者」「加害者」の 3 つの立場で考える構成になっている。このように、それぞれの立場で物事を考えることは、多面的・多角的に考える力を養うことにつながる。

② 話し合い活動から自己の理解を深める

中心発問は十分に時間を取り、周りと話し合う時間を作る。これまでの指導で 3 つの立場で物事を考えることが

できたので、それらについて他の生徒の考えを聞くことで、物事を広い視野から考え、さらに深く自分を見つめることが期待できる。

(4) 終末に向けての指導

展開後段から終末に向けて、導入で提示した「いじめ解決のための生活アンケート」をもう一度提示した。

これにより、教材を読む前の自分と、教材を通して学んだ自分との心境の変化を見つめさせることができた。生徒のワークシートから「最初アンケートを見たとき、いじめは少ないなと感じたけれど、この教材のようなひどいいじめを受けていたかもしれないと考えると、多いのではないかなと感じたことが変わった。」などの心境の変化が見られた。

本教材の概要

【教材 1】

小学生だった 22 年前に、クラスの女の子にひどいいじめをした女性は、いじめの加害者だったことを激しく後悔し、「できることなら会って謝りたい。」と思う。新聞社の取材で、いじめられていた子を知っているという人が見つかった……。

【教材 2】

その人を通して、加害者の女性の「謝りたい。」という気持ちを伝え、相手の返事は「謝ってほしくない。思い出したくない。」であった。22 年の歳月が流れても、いじめはまだ息をしているのだ。

展開例

内容項目：A「自主、自律、自由と責任」

主題名 誠実な生き方とは何か

教材名

教材1：中日新聞 2007年4月28日掲載「加害者」たちの歳月
激しい自責の念、会って謝りたい
教材2：中日新聞 2007年4月29日掲載「加害者」たちの歳月
断られた謝罪、思い出すの嫌

ねらい

自分が犯した罪に対してしっかり向き合わなくてはならないことに気づき、自分のこれからの人生をより強く、より誠実に生きていこうとする気持ちを高める。

段階	学習活動（◎中心発問、○主な発問、・予想される生徒の反応）	◇教師の支援
導入	1 平成29年度「いじめ解決のための生活アンケート」の結果を振り返る ○このアンケート結果を見てどう思いましたか。 ＜ワークシートに記入＞	◇事前のアンケート結果から、「いじめ」は身近なところにあるという問題意識をもたせる。
展開前段	【本時の学習課題】いじめがなくなる現実の中で、いじめ問題に対して一人ひとりがどのような意識をもつことが必要か。 2 [教材1] を読んで次のことを話し合う。 ○「自分がいじめていた子に会って謝りたい。」と言う女性の考えについて、あなたはと思うでしょうか。 ・謝らせてあげたい。 ・今さら「謝りたい」なんて虫がよすぎる。 ○いじめられていた子は、「謝りたい」という女性の気持ちを聞いてどう感じたでしょうか。 ・とてもうれしく思う。 ・思い出したくないからあまり会いたくはないのでは。	◇自分自身の立場で考える発問。 ◇発言に対して「なぜそう思うのか。」と問い返し、考えを深めさせる。 ◇被害者の立場になって考える発問。 ◇「まだ恨んでいるのだろうか。」「もう忘れてしまったのだろうか。」などの補助発問を入れていく。
展開後段	3 [教材2] を読んで次のことを話し合う。 ◎加害者の女性は、これからどのような考えや思いをもって生きていけばよいでしょう。 ＜ワークシートに記入＞ ・ずっと後悔しながら生きていく。 ・二度と他人にいやな思いをさせないよう、人に優しくする。 ・自分の経験を他の人に伝えて、いじめが二度と起きないような行動をする。	◇加害者の立場になって考える発問。 ◇周りと話し合う時間を取ることで、自己の理解を深める。 ◇謝りたくても謝れず、ときどき思い出しては苦しみ続ける。この女性のこれからの人生を想像させる。（いじめの加害者の深い後悔）
終末	【教材を通して学んだこと】何事に対しても誠実に取り組み、自己を律する心をもつことが大切だ。 4 今の自分を振り返り、次のことについて話し合う。 導入で提示したアンケートの結果をもう一度見せる。 ○教材を通して学んだことに照らして、今の自分はどうか。 ＜ワークシートに記入＞	◇導入と終末で同じアンケートを見せることにより、自己を見つめ、考えを深める。 ◇把握した価値をしっかり確認し、時間を十分に取ってじっくり振り返らせる。 ◇ワークシートを書くよう声を掛ける。

こんなとき、どうする？

今回の
テーマ

子どもに、 「道徳科と学活(学級活動)は どこが違うの」と聞かれたら？

子どもたちと接する中で出てくる、「こんなとき、どうする？」。
道徳教育をより輝かせるためのヒントを、先生方に教えていただきました。



「自分を見つめる時間」と 「活動を通して学ぶ時間」の違い。

大阪市立上福島小学校
校長 坂部 俊次

道徳科は、よりよい自分になろうとする心を持てるように、ものの見方や考え方を話し合っ
て大切なことに気づき、自分を見つめ直す時間です。学級活動では、学級生活をよりよくする方
法を、学級集団に参加し、学級の友達と協力し合う活動を通して学びます。道徳科では
自分を見つめ直して学級の人間関係づくりを意識すること、学級活動では、話し合
いを通した集団決定と目標達成のための実践を伴うことが重要です。

このように、道徳科は、全教育活動における道徳性の育成の指導を補充・深化・統合
します。同時に、道徳科での指導が学校教育全体に波及し、生かされていく関係にあり
ます。特別活動、特に学級活動における道徳教育の役割はたいへん重要です。

道徳科は「未来を思考する時間」、 学級活動は「今を思考する時間」。

二本松市立渋川小学校
校長 渡邊 真魚

少し、気障な言い方でしょうか。私は夢や理想をもって、よりよい生き方を思考する
のが道徳科の時間だと考えて、反省的な懺悔の道徳科の時間にならないように心がけて
います。もちろん、夢や理想は、「今」より少し先の未来の生き方。それも「今」とい
うひとときがあつてのことですから、学級活動では、今この段階で、どう集団決
定、あるいは自己決定していくのかを考え、選択し、行動することが求められてい
ると思うのです。その上で、道徳科は、子どもたちに、これからの自分の生き方を考
えさせ、判断し、行動するための心構えをしっかり創る。そうすることで、道徳的諸
価値が資質・能力として身に付くのだと考えます。

未来に向けたよりよい生き方を考えるということこそが道徳科の特質なのです。

学活の学びは、道徳科でさらに深まる

帝京大学
准教授 飯島 英世

みなさんは、国語や社会などの教科の学習だけでなく、学活や休み時間、給食などの
学校のすべての学びの中で、よりよく生きるための心の力を育んでいます。これを道
徳教育と言います。特に学活は、学級や学校生活に関わる具体的な体験を通して、さ
らによりよい集団や学校生活にするための問題を発見し、それをみんなで協力して
解決することで、よりよい友達関係や学校生活のための知恵や心の力を身に付け
る学習ですから、道徳教育にとって大きな役割を持っています。道徳科は、教科書
を参考にして、学活などすべての学びの中で培った心の力について、さらに思いや
考えを深め、自分のよりよい生き方を考える学習です。つまり、道徳科の学習は、
学活などすべての学びを通して行う道徳教育の中心としての役割を担っているの
です。



地球の仲間からの メッセージ

元大阪市天王寺動物園 園長 長瀬 健二郎

うの 角

新しい知識を得ると、世界は広いなと実感することがよくありますが、キリンに5本の角があることを知ったときもそうでした。小さなころからよく知っている動物についてのことだったので、よけいにそう思いました。まだ獣医学科の学生だった頃のことです。

少し説明が必要でしょう。キリンには耳と耳の間にオスメスともに一対の角があるのはご存知だと思います。角が毛で覆われていることに気づかれたと思いますが、ここがウシやシカと大きく違う点です。頭骨の一部が角状に伸び、これが芯となり、周りを皮膚が覆っています。これは主角しゅかくと呼ばれます。その主角の前、目と鼻の間にもう1本あるのが分かりますが、主角よりやや小さいので額角がくしやうと呼ばれます。これで3本です。残りの2本はこの写真では隠れて見えませんが、頭の後ろに後頭角こうとうかくと呼ばれる角が一対あります。これで5本です。少し見つけにくいかもしれませんが、今度、動物園へ行かれたときに観察してみてください。

ウシやシカにも同じように角がありますが、そのでき方はだいぶキリンとは違います。

ウシのそれにはキリン同様、骨の芯がありますが、皮膚で覆われてはいず、角質の鞘をかぶっています。これは洞角どうかくと呼ばれます。

シカの角には骨の芯はありませんが、角の成長期には皮膚で覆われています。皮膚の中の血管は角を形成する基となるカルシウムを角に運びます。こうして角は成長していきます。伸びきると役目を終えた皮膚は剥がれ落ちて中の角が出てきて完成します。これは枝



▲キリンの角は5本もあります。

角つのと呼ばれます。

ウシもシカも一対の角が生えますが、サイの場合、鼻の上に1本、種類によっては前後に並んで2本の角が生えます。これは毛が固く束になったもので、中実角ちゅうじつかくと呼ばれます。

では角は何のためにあるのでしょうか。身を守るためにあると思われがちですが、動物たちの生活を見ているとそれが主目的ではないようです。赤ちゃんを育てるシカのお母さんには角はありません。本当に外敵対策用の武器であるならば、シカのお母さんにこそ必要でしょう。

角の役割はむしろ同じ種のオス同士が戦うときに使う闘争用と解釈されています。「草食系男子」などと動物のことをわかっていない人が名付けましたが、草食系も肉食系もなく、オスは自らの子どもを産んでもらうメスを獲得するために、命を懸けて戦います。そのための武器が角なのです。

角、と一口に言っても、動物によって様々なのです。



日文webサイトにて動画配信中！

「昇太師匠と考える」



春風亭昇太師匠が伝統文化や友情について子どもたちと語り合います。クラスで視聴するなど、ぜひご活用ください。デジタルコンテンツのページには、落語をする昇太師匠の動画もあります。

動く!とくだ先生!



大好評の道徳教育マンガをモーションコミック(アニメーション)にしました。道徳教育について、より楽しく考えられるようになっていますので、校内研修などにぜひご活用ください。



新学習指導要領完全準拠！

知りたいことがきっとわかる！

道徳教育 Q & A

長年現場を指導してきた著者が
170のギモンに答えます！

例えば……

- ・低学年らしい具体的な導入は？
- ・主人公の気持ちばかり聞くのは？
- ・板書のポイントは？
- ・年間指導計画の作り方は？

などなど

好評
発売中!

著者 河合宣昌

定価 1,620円 (本体1,500円+税8%)

B5判 196ページ

～お知らせ～

「平成30年度版 小学道徳 生きる力 教師用指導書」の付録「指導者用デジタル教科書 DVD-ROM」において、動作環境に一部、不具合がございました。32bit, 64bit 対応と記載しておりますが、32bit 版のパソコンの環境では作動しない機能が一部ございます。32bit 版をご利用の皆様には、たいへんご迷惑をおかけいたしますこと、深くお詫び申し上げます。

なお、32bit 対応版がご入り用の方は、弊社ホームページの「ご要望・お問い合わせフォーム」よりお知らせください。

どうとくのひろば No.21

日文教育資料[道徳]

平成30年(2018年)10月15日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社

〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5

TEL: 06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

デザイン:モスリングラフィック

CD33412

日本文教出版 株式会社

<http://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18・F・B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690